

うろ覚えで本紹介

『The City 1: アニアマル力蘇る死者』

2: 地獄の地平線 3: 蛇の街

作家ダレン・シャン氏の作品で、皆さんはどれを読んだこと
がありますか？おそらく一番多いのが「ダレン・シャン」次いで
「デモナータ」だと思います。中には「ダレン・シャン」の前身
となる「クレプスリー伝説」や「やせっぽちの死刑執行人」も
読んだよという方がいるのではないかと。かく言う私は「デモ
ナータ」以外すべて図書館で借りて読破しました。「デモナー
タ」は受験勉強が忙しかったこともあり、最初の数巻を読んだ
きりになっていたので近々一から読み返したいなと思ってい
ます。話がそれましたが、作家ダレン・シャン氏といえば読者
を不思議で不気味な世界に引き込む児童向けのファンタジー
作品を書く作家というイメージがあるかと思いますが、今回うろ
覚えで紹介するのは、そのダレン・シャン氏が「ダレン・シャ
ン」シリーズより前に書いた作品『The City』です。私が中学
の頃だったか高校の頃だったか、いつ頃読んだか正確に覚えて
はいないものの、かなり印象深い作品だったなと覚えていたた
め、今回紹介してみることになりました。

この作品に出会って驚いたのがそのサイズでした。全部で3
巻の作品だったのですが、とにかく一冊が厚い！国語辞典かと
思うぐらいに厚かったのを覚えています。（調べてみたところ
A5判サイズで一番少なくて552頁、最大で674頁でし
た）

物語の舞台はカーディナル(枢機卿)というボスに支配され
た都市で、「バットマン」の「ゴッサムシティ」を想起させるよう
な世界観だったかと記憶しています。内容的にはダークファン
タジーという感じで少し大人向けな部分もいくつかあったな
と覚えています。物語の構成は1巻2巻がそれぞれ別の主人公
で、同じ時間軸のなか自身の出生について探っていく、3巻で
二人の物語が交差するというものでした。具体的な内容につい

てはとも文章で説明しきれ
そうにないため、この拙い文章
を読んで興味を持たれた人は実際
に読んでみることをお勧めし
ます。氏の他の作品のように内
容に引き込まれるのは間違い
ないです。ただ、一冊2500
円前後する作品なので、まずは
図書館で探して読んでみるこ
とを強くお勧めします。以上、
『The City』電子書籍化に期待
しつつ、最近「ダレン・シャン」
シリーズのコミカライズが存
在すると知って読んでみたい
なと思っっている著者でした。

(本多)



コラム

皆さんは、2007年から日本で電子図書館が導入されて
いることをご存知でしょうか？大分県にも電子図書館が豊後
高田市にあります。今日紹介するのは北海道の札幌中央図書
館が運営する「札幌市電子図書館」です。蔵書が開館から3
年余りで約7,700冊あるそうです。自宅や外出先からパ
ソコンやスマートフォンで手軽に借りて読めるため利用者が
増えているそうです。また、電子書籍は文字の拡大や音声に
よる読み上げ機能を利用することができ、高齢者や障害のあ
る方などが利用しやすいようになってきているそうです。電子書
籍が出てきた頃からあった電子書籍が普及されたことで出版
社や図書館などに良くない影響を与えるのではないかの討論
が現実的になっているのかもしれない。

(宮本)

ラーニング・コモンズについて...

ラーニング・コモンズは、複数の学生が集まって、電子情
報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用い
て議論を進めていく学習スタイルを可能にする場所です。別
府大学では39号館国際経営学部棟の一階にあります。ここ
には、学習スペースだけでなく会計や観光学、経営戦略、
マーケティングなどの本が置いてあります。ここに置いてあ
る本は学生証を使って自動貸出機で誰でも貸出しできます。
返却した本は自動貸出機の近くに置いてある「返却本はここ
においてください」と書いてある棚に置いてください。簡単
なのでぜひ利用してみてください。

(宮本)

終わりに

こんにちは、FOBUの部員の和田です。新入生の皆様も在
校生の皆様も、皆様に新しい生活が始まります。その準備期
間たる春休み、皆様はどう過ごされましたか？

大学の春休みは二カ月ほどあるので、旅行された方もいるの
ではないでしょうか。旅行といえは本。移動時間のお供であっ
たり、文豪や作品所縁の地巡りであったり。読書そのものが本
の世界への旅行でもあります。家に居ながら僅かな時間で旅に
出られるのも読書の一興ですが、本がきっかけで実際に出掛け
てみるのもまた一興。皆様も、本を一冊持って、旅に出てみま
せんか。

(和田)



記事…本多政道、宮本佳林、和田一花、
平川花帆、樋口明里咲
編集…樋口明里咲

ふおくぶるの開架書架

4・5 月号

発行者…
FOBUU
(別府大学図書館友の会)

FOBUUの年間行事

- 4月 おすすめの本紹介
- 5月 おすすめ雑誌の展示／読書会(森見登美彦『夜は短し歩けよ乙女』)
- 6月 ビブリオバトル／歓迎会／おすすめ作品展示
- 7月 読書会(江國香織『号泣する準備はできていた』)
- 8月 夏休み期間でお休み
- 9月 おすすめ作品展示
- 10月 ビブリオバトル(映画バージョン)
- 11月 石垣祭でビブリオバトル／
図書館ツアー／おすすめ作品展示
- 12月 忘年会



(平川)

教えて！面白い本

大学生のちよっとおかしな恋愛を描いた『モコ&猫』、妻と愛人の執念を描いた『このたびはとんだことで』、読書クラブが推理を繰り広げる『青年のための推理クラブ』、三十路の女の人生をめぐる『冬の牡丹』、山の上のホテルで起こる奇妙な話『五月雨』、少年のひと夏の冒険を描いた『赤い犬花』の六つのお話が入った短編集です。私のおすすめは、『このたびはとんだことで』です。主人公が骨になってお話が進んでいて面白いです。

それぞれお話のテイストが違いますが、桜庭一樹さんらしさが詰まっています。魅力的な一冊です。

同じ内容である単行本『桜庭一樹短編集』が別府大学附属図書館に所蔵されています。ぜひ一編だけでもいいので読んでみてください。

(樋口)



♪ オススメ音楽・映像作品

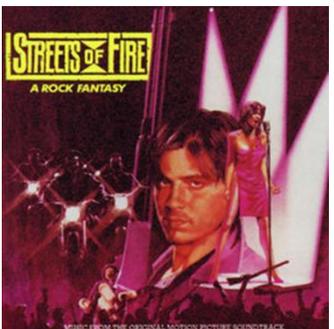


第一回『ストリート・オブ・ファイヤー』

図書館で扱う資料は、本だけでなく音楽や映像資料もあるということ、
そちらのオススメ作品の紹介もやってみることにしました。そんな訳で、第一回は映画『ストリート・オブ・ファイヤー』をご紹介します。

『ストリート・オブ・ファイヤー』は1984年製作のアメリカ合衆国の映画です。「昇竜拳」とか「波動拳」とかのゲームの関連作品じゃありません。西部劇の形式を踏襲したロック映画です。その年度の『キネマ旬報』では、読者による選出でベストワンに選ばれました。アクション映画がお好き？結構。ではますます好きになりますよ。

舞台はネオンと高架と路地裏の街リッチモンド。故郷に帰ってきた人気女性ロック歌手の公演中、ストリートギャングが乱入し彼女を拉致するという事件が発生。警察が動けない状況の中、そのことを電報で知らされた主人公が街に戻ってくる。二人はかつて愛し合った仲であったが、主人公は音楽の道を選んだ彼女のもとを去り軍隊に入っていた。主人公はさっそくギャングのアジトへ繰り出すと、あつという間に炎の海にして彼女を救出、二人の愛が再燃、ギャングたちの復讐、西部劇さながらの一騎打ち、その他云々と色々あつて街には平穏が戻り公演が再開される。ステージで歓声とスポットライトを浴びる彼女の姿を見届けながら主人公は会場を後にし、再び流れ者となってどこかへ去っていく。そんな主人公の去り方もカッコ良いが、



作中で演奏される楽曲
Nowhere Fast I Can Dream
About You Tonight is What
It Means To Be Young
の曲もまたとても印象に残る良い曲なので、今回紹介してみたいことにした。著者の文章力では絶対に魅力が伝わりきらないので、是非ともその目と耳で実際に映画『ストリート・オブ・ファイヤー』の魅力を味わってほしい。

(本多)

